

山・里のめぐみと山村振興

山村の暮らしを支えてきた里山（入会林野）

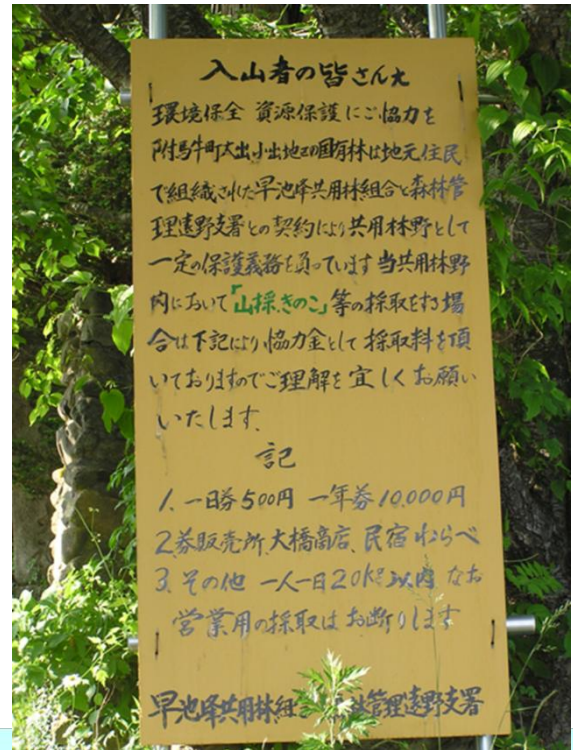
- 農山村の集落近くに位置し、農民の生業のもとで利用に供された履歴をもつ林野
- 江戸時代、里山は刈藪、厩肥、牛馬飼料、また家作用材・燃料の採取源として、農民が生きていくうえで不可欠な存在・多く農民はそれらを入会利用地として、様々な制限を加えたうえで、適正に管理・利用
- 入会林野は、農民の生活を支える支柱であったし、村落共同体をとりまとめる鼎
- 管理・利用について集団内である規律が定められ、利用にあたって種々の権利・義務関係が伴っているタイトな「ローカルコモンズ」そのもの
- 土地所有の曖昧な制度を許さず官民の二者択一を迫る明治政府の政策の下、入会林野の国有林や民有林への囲い込みが激化

地域共同で森林を管理・利用すること

コナラ部分林

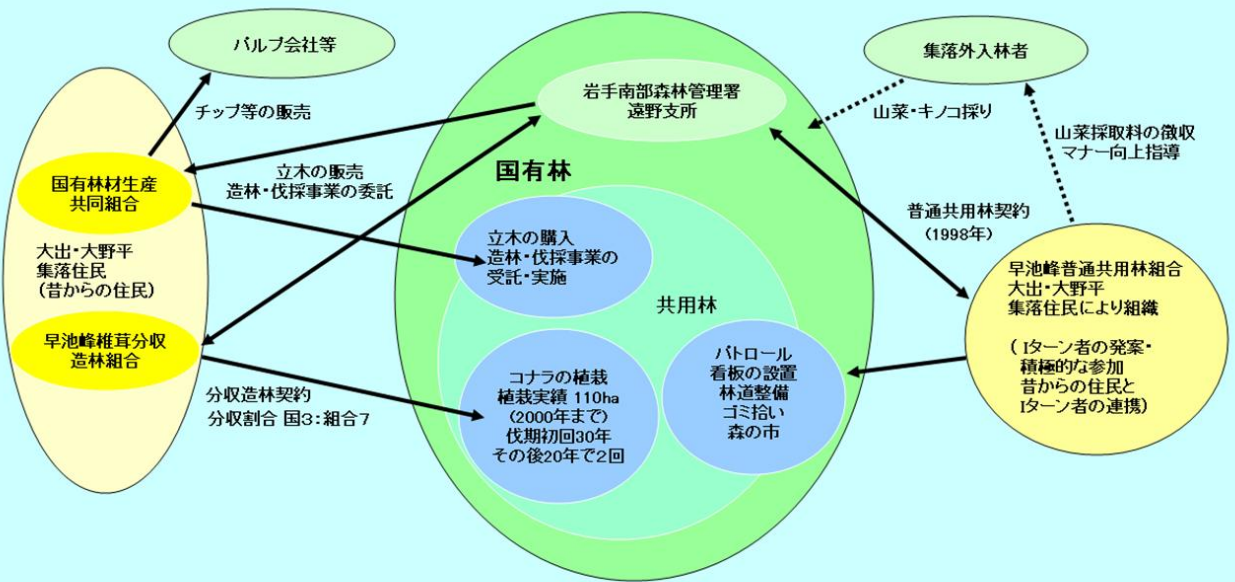


共用林組合看板



森林資源利用ネットワーク

森林資源保全ネットワーク



遠野市大出・大野平集落住民と周辺国有林の係わりの現状

- 遠野地域の山麓に住む人たちは、地域の森林を共同で管理・利用しながら暮らしていくためのシステムづくりに取り組み始めている
- 地域の森林管理を、地域に住む人自らの問題としてとらえ始めた結果であり、森林の管理・利用権を地域に取り戻すきっかけとなるもの